

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

保健体育科

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観 点	1 学期			2 学期			3 学期
	学 年	課題分析	具体的な改善策	学 年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年	○運動を楽しもうとする姿勢で意欲的に取り組んでいる。	・運動の合理的な実践が知識に裏打ちされるように、関連づけて指導する。 ・量・質の両面から個々の運動能力や技術の向上を図っていくとともに、自分の能力に挑戦していく雰囲気をつくっていく。	1 年	○バスケットボールの基本であるパスやドリブルの習得を目標に取り組み、個々に上達が見られた。マット運動や跳び箱では、それぞれの能力に応じた技や段数で取り組み、達成感を得る生徒が多く見られた。	・球技では、基本的な技能を身に付けるとともにルールを理解してゲームをすることができた。経験を積むことで更に技の工夫ができるようにしたい。 ・マット運動や跳び箱は、頑張ってできる（できそうな）技を自ら選択することで、前向きに練習に取り組む生徒が多く見られた。	・3 学期は体育に親しみ、楽しむことを重点に置き、ゲームを中心に球技を実施した。 ○体育を苦手にしている生徒も楽しんで取り組んだ。 ○卓球ではサーブやラリーなどルールに基づいて行った。
	2 年	○自分の能力を伸ばそうとして意欲的に取り組んでいる。		2 年	○バスケットボールでは、レイアップシュートやリバウンドシュートの習得を目標に取り組み、個々に上達が見られた。マット運動や跳び箱では、それぞれの能力に応じた技や段数で取り組み、達成感を得る生徒が多く見られた。		・3 学期は体育に親しみ、楽しむことを重点に置き、ゲームを中心に球技を実施した。 ○体育を苦手にしている生徒も楽しんで取り組んだ。 ○バドミントンでは様々な打ち方でラリーを続けることができた。
	3 年	○1・2 年での経験を生かし、意欲的に取り組んでいる		3 年	○バスケットボールでは、スクエアパスやレイアップシュート等の習得を目標に取り組み、個々に上達が見られた。マット運動や跳び箱では、それぞれの能力に応じた技や段数で取り組み、達成感を得る生徒が多く見られた。		・3 学期は体育に親しみ、楽しむことを重点に置き、ゲームを中心に球技を実施した。 ○体育を苦手にしている生徒も楽しんで取り組んだ。 ○卓球では審判としてゲームを運営することができた。
思考・判断・表現	1 年	▲説明や試技を受け、考えて実践にうつす生徒が少ない。	・振り返りシートを活用したり、生徒同士の教え合いを活用するなどして、生徒自らが考えて授業に取り組めるように工夫していく。	1 年	○前時の振り返りが次の課題につながるようになってきた。	・生徒同士の関わる場面を増やしたことから他者に対して関心をもち、それが自分を振り返るきっかけになった。 ・器械運動では体の使い方を意識させることで、空中のフォームや着地、なめらかな回転運動ができるようになった生徒が多く見られた。	・ゲームを楽しむ前提として基本的な技能を習得した上で、それをどのように活用すればゲームに活かせるか考えさせた。 ○卓球では場面に応じて効果的な打ち方を考えた。 ○思い通りにいったときに成功した喜びを味わえた。
	2 年	○行ったことを振り返って次の改善の資料にできる生徒が増えてきた。		2 年	○互いに声掛けやアドバイスをし合うことから自分を振り返る機会が増えた。		・ゲームを楽しむ前提として基本的な技能を習得した上で、それをどのように活用すればゲームにいかせるか考えさせた。 ○バドミントンでは打ち方を変化させることでゲームを有利にする方法を考えた。 ○思いどおりにいったときに成功した喜びを味わえた。
	3 年	○知識を活用して改善に生かそうとする生徒もできた。		3 年	○互いに声掛けやアドバイスをし合うことから自分を振り返る機会が増えた。		・ゲームを楽しむ前提として基本的な技能を習得した上で、それをどのように活用すればゲームに活かせるか考えさせた。 ○思い通りにいったときに成功した喜びを味わえた。 ○選手が気持ちよくゲームするための審判の方法を考えた。
主体的に学習に取り組む態度	1 年	○意欲的に取り組んでいる。得手不得手よりも、まずはやってみようとする姿勢が見られる。	・まずは体育を楽しむ姿勢で授業に臨めるよう指導法を工夫し、全体として意欲的に授業に取り組むことができた。更に発展的に自主的活動ができるよう、資料の準備などもしていきたい。	1 年	○基本的な授業の進め方を共通にすることで、次の見通しが立ち、自主的に動けるようになった。 ○生徒同士が関わる機会を意識的に増やしたことで、互いに協力して行う場面が増えた。	・体力よりも技術が必要な器械運動では、生徒個々に自分で課題を設定したことで、より高度な技を身に付けたり新たな技に挑戦しようとする意欲が見られた。 ・バスケットボールではバスケ部中心にチームを構成し、互いにアドバイスし合うことで刺激合う雰囲気や育ってきた。	○成功体験を重ねることでより進んで取り組む姿勢が見られるようになった。
	2 年	○意欲的な生徒が多く、まじめに取り組んでいる。 ▲運動意欲に差があり、諦めてしまっている生徒もいる。		2 年	○基本的な授業の進め方を共通にすることで、次の見通しが立ち、自主的に動けるようになった。 ○生徒同士が関わる機会を意識的に増やしたことで、アドバイスなどにつながる場面も増えた。		○仲間で協力して練習したり、対戦し合うことで自分の改善点を見い出し、更に意欲的に授業に取り組んだ。
	3 年	○意欲的な生徒が多く、まじめに取り組んでいる。 ▲体調不良で休んだときに見学としての活動(授業観察の記録等)ができるとうい。		3 年	○基本的な授業の進め方を共通にすることで、次の見通しが立ち、自主的に動けるようになった。 ○生徒同士が関わる機会を意識的に増やしたことで、アドバイスなどにつながる場面も増えた。		○仲間で協力して練習したり、声を掛けあってゲームを進めることで、更に意欲的に授業に取り組んだ。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業	班でダンスを考えるうえで話し合いを重ねたことで、その後様々な場面で意思疎通する場面が増えた。		ダンスの振り付けをクロムブックで動画を見て参考にしたり、自分たちの踊りを録画し修正する点を班で話し合うことができた。	バスケットボールでは各チームに1人以上バスケ部員を入れチーム練習や、マンツーマンディフェンスの確認をバスケ部員主導で行った。教える側のバスケ部員にとっても今までの技術習得のフィードバックとなった。		運動会・陸上競技記録会を経て、主体的に学ぶ楽しさや達成感を実感できた生徒が多く、授業でも前向に取り組む生徒が増えた。一方、1 学期から見学が多い生徒は2 学期に改善することが難しかった。	I C T 機器は、教材(模範動画)の提示、持久走におけるラップタイムの計算、授業の振り返りの蓄積として使用した。授業の最後に毎回取り入れることで習慣化した。